

小学校3年生用「男女平等教育」学習資料 「らしさってなあに？」

活用の手引き

使い方について

本学習資料は、学級活動や道徳、総合的な学習の時間に取り扱うことが可能です。年間の行事や学級の実態に合わせ適切に適時指導すると効果的です。活用にあたっては、次のような場面を想定しています。

- ・ 学級活動の時間にキャリア教育や、人権教育、同和教育に関連して指導する。
- ・ 道徳科の内容項目で「個性の伸長」「相互理解・寛容」「公平・公正・社会正義」に関連付けて指導する。
- ・ 総合的な学習の時間では、友だちと協力しながら活動する場面等で指導する。

「男女平等教育」学習資料 小学校3年生用

らしさってなあに？

① 考えてみよう。これ、どう思う？

女の子なんだから、ちよっとは手伝って！

男の子は、外で元気に体を動かして遊ぶものだけ。

A B

AやBを見て、感じたことや考えたことはありますか。

みんなで話し合ってみよう。

新潟市教育委員会

② 家の仕事にも「男だから」「女だから」ってあるの？

料理は女の人の方が得意。だから、食卓や片づけは女の人にまかせよう！

修理は男の方が得意。だから、もの修理は男の人にまかせよう！

あなたはどう思いますか。

③ 自分の好きなことやとくいなことを生かして家でやっていること、やってみたいことは何か？

家でやっていること

これからやってみたいこと

p.1の題材について

家庭での役割や遊びなどに関わって「男らしさ」「女らしさ」が話題になりがちな場面を取り上げています。感じたことや考えたことを話し合う中で、身の周りに「男らしさ」「女らしさ」という性別に基づく差別や偏見があることに気付かせます。

p.2の題材について

家庭において、「男だから」「女だから」とアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見・思い込み）がある場面を取り上げています。性別にとらわれずに「自分らしく」生活するにはどうするか、話し合われます。

④「自分の好きなこと」を生かすためには…?

下の二人は、「自分の好きなこと」を生かして活やくしている自分を想像しています。

わたしはものをつくるのが好きだから、大人になったら、ビルや大きな橋をつくりたいな。

あやかさん

ぼくは音楽が好き。どこにピアノをひくことができ、将来はピアノの先生になりたい。

ひろしさん

上の二人の話を聞いて、下の三人が感想を話しています。あなたが、さんせいする意見の()に○を付け、その理由を説明しましょう。

点検者は、貴方が知っているよ。工場職人の人なんて知らない。

ゆうきさん

自分の好きなことを仕事にできるなんてすてきだね。

みほさん

音楽が好きなんて、カッコいい。ピアノをひいているのは、大人はばかやしない。

りょうたさん

あなたの「自分の好きなこと」はどんなことですか？

将来、どんな大人になりたいですか？

男だから女だからではなく、自分の好きなことや得意なことを生かして生きること。そして、みんなできいっしょに協力する社会を「男女共同参画社会」といいます。

「自分らしさ」を大切に…

バス運転士 宗村 麻樹子 さん

宗村さんはバス運転士を目指していましたが、友人の勧めもあり、1泊2日の遠征を目標にしました。転職を決めてから英語三級免許の取得に挑戦しました。バスの乗客へ「私も先を付けていることは、他の乗客以上です。ブレーキを踏むときもみんなの注意をお願いします。お客様から「ありがとうございます。」と声をかけられることが一番うれしいです。現在は、高校2年生にも乗務しています。これからも、安全に注意し、お客様に快適なバス旅を提供していきたいです。

幼稚園教諭 石原 尚彦 さん

私は小学校教諭を目指していましたが、幼稚園の教育実習が転機となりました。子どもと関わりあうのが大好きだったので一緒に働くことに決めました。その時の感動が忘れられません。幼稚園教諭として働くことに決めました。「運動が好き」「生き物が好き」「じっくり考える」「友達に優しい」など、子どもはいろいろな価値観を持っている。子どもが自分らしく生き生きと成長してほしいから、これからは一人一人の個性を理解し、しっかりと受け止めて保育をしていきたいと思っています。

*あなたが「自分らしさ」を生かしてやってくることができるように、おうちの人から応援メッセージをもらいましょう。

保護者の皆様へ

子どもたちは毎日に大きな夢をもって毎日の生活を送っています。自分らしく育つよう応援に励ましながら、大人の人たちが頑張っている姿を見たいと思います。小学校教諭の経験は中身の厚さが伝わってきます。そのときに「頑張っている」とか「泣いている」とか「困っている」とか「頑張っている」とか、思いがけず子どもが成長を願っていることに気づきます。特に「しんが」は子どもが幼稚園に入学した時から見られます。教師をはじめとする関係者からは、すべての子どもが成長を望んでいる。子どもは自分らしく成長を望んでいます。子どもが成長を望んでいるのは、子どもが成長を望んでいるからです。子どもが成長を望んでいるのは、子どもが成長を望んでいるからです。

p.3 の題材について

自分の好きなことや得意なことを頑張り、将来につなげていくことは「自分らしさ」を大切にすることに気付かせます。自分の好きなことやどんな大人になりたいかを考えさせます。

p.4 の題材について

自分らしい生き方を選んだ、バス運転士の渡邊さんと、幼稚園教諭の石原さんを紹介します。夢を実現させ、個性と能力を発揮して働く姿から、性別にとらわれず自分らしさを大切にしようとする気持ちを育てていきます。保護者からも応援メッセージをもらう欄を設けています。

1 ねらい

学校や家庭などの日常生活や職業に関する固定的な性別意識について話し合い、「男らしさ」「女らしさ」といった考え方にとらわれず、自分の好きなことや得意なことを伸ばしていくことを考えるを通して、性別によらない「自分らしさ」を大切にしようとする心情を育てる。

2 展開(2時間)

主な活動	留意点
<p>1 らしさってなあに？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの場面について、感じたことや考えたことを書き、学級全体で話し合う。 <p>2 「男だから」「女だから」ってあるの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇らしさ」で、家の仕事が生かされていることはないか、話し合う。 ・家庭生活でやってみたいことを考え、「自分らしく」生活することのよさについて話し合う。 	<p>感じたことや考えたことを書き、話し合う中で、日常生活にある差別や偏見に気付かせる。親は間違っているという極端な意識にならないように気を付ける。</p> <p>家族の一員として自分のできる家の仕事を行い、得意なことを生かして豊かに生きようとする心情を高められるようにする。</p>
<p>3 自分の好きなことを生かすためには？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あやかとひろしの考えを知る。ゆうき、みほ、りょうたの意見について考える。 ・自分の好きなことや夢(職業、イメージなど)を考える。 <p>4 自分らしい生き方をえらんだ人々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の2人の選んだ生き方を読む。感想を話し合う。 ・「自分らしさ」を発揮して生きることの大切さを知る。 	<p>ゆうき、りょうたの意見は差別につながる偏見があることを理解させる。さらに自分の好きなことを生かして将来を考えることは「自分らしさ」を大切にすることであると気付かせる。好きなことと、夢(職業、イメージなど)が繋がっていても児童の思いを受け止め、認め合う雰囲気づくりを心掛ける。</p> <p>性別に関係なく、自分の得意なことや興味のあることを生かして職業選択するよさに気付かせ、将来の夢について考えさせる。</p>

学校から未来社会を男女平等に!

新潟大学経営戦略本部ダイバーシティ推進センター
准教授 中野 享香

前回の改定以降、新型コロナウイルスの蔓延や教育におけるデジタル化の加速、また、地震や豪雨、連日40度超えの酷暑といった自然災害、元首相の銃撃事件や闇バイトと呼ばれる若者が関わる犯罪、終わらない戦争など、大人でも経験したことがないような出来事が次々と起こり続けています。

大きな環境変化を乗り越えるために、生物は種や遺伝子を多様にする戦略を取りました。自然淘汰の仕組みをそのまま持ち込めるわけではありませんが、社会もまた、多様な個人の能力や価値観を尊重して活かせる組織を増やし、そうでない組織を淘汰することによって、多様な文化や制度を包摂して自らのレジリエンスを高めることを生存戦略としている、それが、私たちの意識に表れたものが、“男女平等”や“ダイバーシティ”だと考えることができます。変化の激しい時代だからこそ、多数派の大きな声だけではなく、一人の小さな声からヒントを得る必要があるのです。男女雇用機会均等法の施行から約40年、日本社会は少しずつ男女平等へと変化してきました。それはまさに小さな声を挙げ続け、拾い続けた歴史の成果であり、その変化は今後、多様性の尊重の元に、性別を超えたあらゆる個性の尊重へと広がっていくでしょう。

では、小さな声を挙げ続け、拾い続ける社会にはどのような教育が必要でしょうか？

それはきっと、示された課題を、自分なりの言葉で理解し、考え、迷わず尋ねたり、諦めずに挑戦したりできて、自然に目が輝くような教育、そうした学びの楽しさが子どもたち全員に保障されている教育のはずです。子どもたちはそうした態度を、教科学習だけでなく、友人や先生たちの何気ない会話、掲示物に書かれた言葉等、学校のあらゆる風景から学び取ります。先生がかける言葉が相手の性別によって違っていたり、立場によって言うべきことを言わずにいたりすると、そうした一瞬一瞬の姿が子どもたちの中に積み重なって“社会の価値観”になっていきます。

そのため、まずは先生方に男女平等教育の必要性や意義をご自身でじっくりと問い直して見ていただきたいと考えています。男女平等の実現とはどういうことか、どうすれば「多様な声に耳を傾け、自らも声を上げられる人」を育てることができるのか。学校は未来社会を創る場です。現場の先生方全員がこの課題に向き合い、学校を最も男女平等な場にすることができれば、社会全体の男女平等が実現する未来はもう目の前です。

作成 新潟市教育委員会
新潟市男女平等教育推進研究会

小学校6年生用「男女平等教育」学習資料

「自分らしく」

活用の手引き

使い方について

本学習資料は、身近な日常場面で起こりうる偏見や差別、職業に関係する偏見や差別を取り上げながら、「男らしく」「女らしく」といった考え方にとらわれず、「自分らしく」生きるとは、どういうことかを見童に考えさせる資料です。活用にあたっては、次のような場面を想定しています。

- ・ 道徳科の内容項目「個性の伸長」「友情、信頼」（特に、異性への理解）「公正、公平、社会正義」について関連付けた指導を行う。
- ・ 総合的な学習の時間等で、キャリア教育の一環として指導する。
- ・ 学習参観で、保護者も交えた対話を行いながら学習を進めたり、学習内容について見童と保護者が話し合ったりするなどして、家庭との連携を図った取組を行う。

「男女平等教育」学習資料 小学校6年生用

自分らしく

①男だから!? 女だから!?

もの作りが大好きなAさんは、手芸クラブに入りました。クラブ最初の日、友達から次のように言われました。

アニメが大好きなBさんは、「あのキャラクター、大好き。」と言いました。すると、友達から次のように言われました。

手芸クラブってAさん以外、全部女子がいないじゃないですか？

あのキャラって男子向きでしょ？

あなたがその場にいたら、何と言いますか。

Aさん、

Bさん、

どういふにすることが「自分らしく」することなのでしょう。

新潟市教育委員会

②「らしさ」って何だろう？

下の絵のような場面について考えましょう。

◆ 運動会に向けて ◆ 応援団長は、やっぱり男子がふさわしいよ。

◆ 自然体験教室で ◆ 男子は、まき遊びね。

私、園長になりたいな。

女子は、料理係をしてね。

あなたはどのように思いますか。

「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方についての調査

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
全体	3.4	17.4	34.9	26.6	14.6	3.1
男性	2.4	14.3	37.7	28.3	13.4	3.9
女性	4.4	20.8	31.9	24.9	15.8	2.2

引用) 新潟市「男女共同参画に関する基礎調査」令和6年9月調査

上のグラフを見て、どんなことを考えますか。

p.1 の題材について

クラブや趣味など身近な場面で「男だから」「女だから」と偏見が生まれがちな場面を取り上げています。どう答えるかを考えたり、「自分らしく」するための方法を考えたりするなかで、身近な場面に偏見や差別があることに気付かせます。

p.2 の題材について

学校でありがちな場面を取り上げたり、グラフを読み取ったりします。「男は仕事、女は家庭」という偏見にとらわれず、「自分らしく」するとは、どういうことかについて、考えさせます。



p.3 の題材について
 二人の将来の夢について、偏見などにとらわれず、自分の趣味や特技を生かした仕事に就くことは「自分らしい」生き方であることに気付かせます。自分らしい生き方を選んだ人の事例から、「自分らしい」職業選択をすることの大切さを改めて学びます。

p.4 の題材について
 「自分らしさ」を生かして、将来の職業やどんな人になりたいかなど、叶えたい夢について考え、まとめます。性や価値観など多様性の尊重にもふれながら、自他共に「自分らしく」生きるために大切なことを考えます。保護者からも励ましの言葉をもらう欄を設けています。

1 ねらい
 身近な日常場面や職業に関係する偏見や差別について、「男らしく」「女らしく」といった考え方にとらわれず、「自分らしく」生きるとは、どういうことかを考えることを通して、自他の「自分らしさ」を大切にしようとする心情を育てる。

2 展開 (4時間)

主な活動	留意点
1 「男だから!?女だから!」 ・絵を見て、吹き出しの中の言葉を考える。 ・「自分らしさ」について、学級全体で話し合う。	児童が自由に話し合う中で、身近な場面に偏見や差別があることに気付くことができるようにする。
2 「らしさ」ってなんだろう? ・「女らしく」「男らしく」と言われることについて考える。 ・新潟市「男女共同参画に関する基礎調査」のグラフを基に、分かることや思うことを話し合う。	「女らしく」「男らしく」といった偏見にとらわれず、自分にできることをすることが大切であり、性別に関係なく、その人の選択が尊重されるとよいことを導く。
3 「自分らしく」生きるためには? ・二人の将来の夢を読んで、どんな言葉掛けをするか考え、紹介し合う。 ・資料の「自分らしく」職業を選択して生きている人の事例から、思ったことや考えたこと等を話し合う。	前時までの学習をもとに、性別による偏見にとらわれず、「自分らしく生きるために」の視点から二人の将来の夢への応援メッセージを考えられるようにする。 事例から「自分らしく」生きる喜びや仕事への思いを読み取らせ、「自分らしさ」を大切にすることのよさを感じさせる。
4 「自分らしく」生き続けて… ・自分の将来の夢やなりたい自分を考える。 ・様々な多様性について知り、自他共に「自分らしく」生きるために大切にしたいことを考え、話し合う。	自分の将来の夢や目指す姿を一人一人が大切に、尊重し合えるように導く。 「自分らしさ」を考える上で、性の多様性にふれながら、様々な多様性を尊重することが大切であることを理解できるようにする。

学校から未来社会を男女平等に!

新潟大学経営戦略本部ダイバーシティ推進センター
准教授 中野 享香

前回の改定以降、新型コロナウイルスの蔓延や教育におけるデジタル化の加速、また、地震や豪雨、連日40度超えの酷暑といった自然災害、元首相の銃撃事件や闇バイトと呼ばれる若者が関わる犯罪、終わらない戦争など、大人でも経験したことがないような出来事が次々と起こり続けています。

大きな環境変化を乗り越えるために、生物は種や遺伝子を多様にする戦略を取りました。自然淘汰の仕組みをそのまま持ち込めるわけではありませんが、社会もまた、多様な個人の能力や価値観を尊重して活かせる組織を増やし、そうでない組織を淘汰することによって、多様な文化や制度を包摂して自らのレジリエンスを高めることを生存戦略としている、それが、私たちの意識に表れたものが、“男女平等”や“ダイバーシティ”だと考えることができます。変化の激しい時代だからこそ、多数派の大きな声だけではなく、一人の小さな声からヒントを得る必要があるのです。男女雇用機会均等法の施行から約40年、日本社会は少しずつ男女平等へと変化してきました。それはまさに小さな声を挙げ続け、拾い続けた歴史の成果であり、その変化は今後、多様性の尊重の元に、性別を超えたあらゆる個性の尊重へと広がっていくでしょう。

では、小さな声を挙げ続け、拾い続ける社会にはどのような教育が必要でしょうか？

それはきっと、示された課題を、自分なりの言葉で理解し、考え、迷わず尋ねたり、諦めずに挑戦したりできて、自然に目が輝くような教育、そうした学びの楽しさが子どもたち全員に保障されている教育のはずです。子どもたちはそうした態度を、教科学習だけでなく、友人や先生たちの何気ない会話、掲示物に書かれた言葉等、学校のあらゆる風景から学び取ります。先生がかける言葉が相手の性別によって違っていたり、立場によって言うべきことを言わずにいたりすると、そうした一瞬一瞬の姿が子どもたちの中に積み重なって“社会の価値観”になっていきます。

そのため、まずは先生方に男女平等教育の必要性や意義をご自身でじっくりと問い直して見ていただきたいと考えています。男女平等の実現とはどういうことか、どうすれば「多様な声に耳を傾け、自らも声を挙げられる人」を育てることができるのか。学校は未来社会を創る場です。現場の先生方全員がこの課題に向き合い、学校を最も男女平等な場にすることができれば、社会全体の男女平等が実現する未来はもう目の前です。

中学校2年生用「男女平等教育」学習資料

「ひとりひとりが活躍できる社会を目指して」

活用の手引き

使い方について

本学習資料は、提示された資料を基に、私たちの社会や生活の中に、固定的な性別役割分担の意識があることに気付かせながら、自分の個性や能力を発揮する進路選択の大切さを考えることを通し、「ひとりひとりが活躍できる社会」の実現に向けた男女の平等感を生徒に考えさせる資料です。活用にあたっては、次のような場面を想定しています。

- ・ 道徳科の内容項目「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「社会参画、公共の精神」について関連付けた指導を行う。
- ・ 職場体験活動の事前・事後学習や進路学習等で、キャリア教育の一環として指導する。

「男女平等教育」学習資料 中学校2年生用

ひとりひとりが活躍できる社会をめざして

①資料から見る日本の社会 その1

将来のことについて考えてみよう。



図1のグラフを見て、分かることや考えたことを書きましょう。

(図1)【参考資料】「労働力調査(基本集計)2022年(令和4年)」(総務省統計局)より

年齢階級別労働力人口比率(%)



新潟市教育委員会

p.1の題材について

図1のグラフから、社会において、就職する時点では就職率が同じでも、年齢を重ねるにつれて、女性が仕事をしている割合が男性よりも低くなっていることに気付かせ、その理由について考えさせます。

②資料から見る日本の社会 その2

図2、図3のグラフを見て分かることや考えたことを書きましょう。

(図2) 共働き等世帯数の年次推移



分かること

(図3) 労働時間の国際比較

国	男性 (時間)	女性 (時間)
米国	400	400
日本	400	200
カナダ	400	400
スウェーデン	400	400
韓国	400	400
ノルウェー	400	400
ドイツ	400	400
フィンランド	400	400
フランス	400	400
イタリア	400	400

誰もが「自分らしさ」を発揮して働くためには、社会全体として、どんなことが必要でしょうか。あなたの考えを書いてみよう。

p.2の題材について

図2、図3のグラフから、共働き家庭の割合が高くなってきたこと、女性の無償労働時間が男性に比べ長いこと、日本では特に男性の無償労働時間が諸外国に比べて極端に低いことに注目させ、国際的にも性別役割分担の意識が高いことに気付かせます。

その後、社会全体としてどんなことが必要か考えさせます。

③あなたらしさ・その人らしさ

家庭や学校で、周りの人から性別を理由として、納得できないことを言われたり、見たり聞いたりしたことはありますか。具体的な場面を挙げてみましょう。

そのようなとき、どのようにすれば、納得できるでしょうか。周りの人と話し合ってみましょう。

あなたも、周りの人も、誰もが「自分らしさ」を発揮して生きるためには、
 どういうことが大切でしょうか。

必読資料 ★知っていますか？ SOGIESC (ソジエスク) ¹⁾

SOGIESCは「性的多様性」を指すための用語。性的指向(Sexual Orientation)、性自認(Gender Identity)、ジェンダー表現(Gender Expression)、性自認の表現(Sex Characteristics)の総称です。

性的指向 (Sexual Orientation)	性自認 (Gender Identity)	ジェンダー表現 (Gender Expression)	性的身体的特徴 (Sex Characteristics)
●性別や恋愛の傾向についての傾向 ●性的指向を決定するものがない。肉体的に決定されるものではない。肉体的に決定されるものがない。肉体的に決定されるものがない。	●性別や恋愛の傾向についての傾向 ●性的指向を決定するものがない。肉体的に決定されるものではない。肉体的に決定されるものがない。	●性別や恋愛の傾向についての傾向 ●性的指向を決定するものがない。肉体的に決定されるものではない。肉体的に決定されるものがない。	●性別や恋愛の傾向についての傾向 ●性的指向を決定するものがない。肉体的に決定されるものではない。肉体的に決定されるものがない。

★性の権利 (Sexual Rights)

性は心のだけでなく身体とも結びついています。私たちが身体を尊重する権利があり、基本的人権により尊重されるもの一つです。性のことを持ち出すことは恥ずかしいことではありません。性を理由にからめたり、差別や罰を課せたりすることは被害者の権利を侵害する行為です。被害者を尊重する権利は他の権利に劣るべきではありません。性について議論することは必要で、議論の場を積極的に活用することが大切です。

1) SOGIESCの解説: URL: https://www.sogiesc.jp/ 発行: 2019年10月 (編集: 東京都教育委員会)

④個性や能力を発揮して…

中野区立南陽高等学校 警察官 廣瀬 未来 さん

高校生の頃、私が警察内で働くことに決めた時に友人を誘って一緒に大人数で働くことに決めた。私も警察官、中野でも警察官になりたかった。

例えは「中野」の警察に憧れた女性の中に「警察官」を目指して夢を叶えたいという人が多かった。私もその一人として夢を叶えたいという思いで、中野警察署を目指した。中野警察署には、中野警察署の女性警官のサポートが充実している。中野警察署には、中野警察署の女性警官のサポートが充実している。中野警察署には、中野警察署の女性警官のサポートが充実している。

中野区立南陽高等学校 警察官 伊藤 真由 さん

私は、小学生の頃に警察官や消防士になることに憧れていました。中野警察署には、中野警察署の女性警官のサポートが充実している。中野警察署には、中野警察署の女性警官のサポートが充実している。中野警察署には、中野警察署の女性警官のサポートが充実している。

自分の個性や能力を活かした進路選択や職業について、学習を通してどのように考えましたか。

家の人から感想やメッセージを書いてもらいました。

保護者の皆様へ

中野区立南陽高等学校 警察官 廣瀬 未来 さん

中野区立南陽高等学校 警察官 伊藤 真由 さん

p.3 の題材について

自身の経験の中で、性別を理由に納得できないことがあったかを考え、そのときの気持ちやどのようにすれば納得できるのかを自由に話し合います。男女共同参画社会の実現に向け、誰もが自分らしく生きるための大切さに気付かせます。

p.4 の題材について

自分らしい生き方を選んだ人々の事例を通し、性別に関係なく、自分の意志で職業を選択していくことの大切さに気付くとともに、保護者からも励ましの言葉をもらう欄を設けています。

1 ねらい

学校や社会における、固定的な性別役割分担の意識があることに気付くとともに、誰もが、個人の能力や個性を発揮して生きていく態度や見方・考え方を身に付ける。

主な活動	留意点
<p>1 男女の平等感について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働力調査のグラフの読み取りから、なぜ性別による労働状況の違いがあるのかについて、その理由を考える。 <p>2 社会の中で、固定的性別役割分担意識が根付いていることに気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料からよりよい社会の実現のために、どんなことが必要かを考え、班や学級全体で考えを述べ合う。 	<p>図1、図2、図3の資料の読み取りから、社会では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識が根強く残っていることに着目させる。</p> <p>それらの事柄を踏まえて、男女共同参画社会の実現に向けて、どんなことが必要なのかを具体的に考えさせる。</p>
<p>3 自分の個性や能力を発揮する生き方に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別を理由とした納得できない事例やその対応の仕方について、班や学級全体で考えを述べ合う。 	<p>性別を理由に納得できないことを言われたり見たり聞いたりした場面を想起させ、その時の気持ちやどうすれば納得できるのかについて自由に述べ合う。そのことを通じて、自分の夢や希望に沿った自分らしく生きることの大切さに気付かせたい。</p>
<p>4 自分らしい生き方を選んだ人々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の事例を参考に、自分の夢や希望を大切にして進路選択する大切さや、仕事における男女の役割を知る。 	<p>自分の意志で就いた職業において、社会における性別特有の役割の存在と、それらを担うことの大切さに気付かせる。</p>

学校から未来社会を男女平等に！

新潟大学経営戦略本部ダイバーシティ推進センター
准教授 中野 享香

前回の改定以降、新型コロナウイルスの蔓延や教育におけるデジタル化の加速、また、地震や豪雨、連日40度超えの酷暑といった自然災害、元首相の銃撃事件や闇バイトと呼ばれる若者が関わる犯罪、終わらない戦争など、大人でも経験したことがないような出来事が次々と起こり続けています。

大きな環境変化を乗り越えるために、生物は種や遺伝子を多様にする戦略を取りました。自然淘汰の仕組みをそのまま持ち込めるわけではありませんが、社会もまた、多様な個人の能力や価値観を尊重して活かせる組織を増やし、そうでない組織を淘汰することによって、多様な文化や制度を包摂して自らのレジリエンスを高めることを生存戦略としている、それが、私たちの意識に表れたものが、“男女平等”や“ダイバーシティ”だと考えることができます。変化の激しい時代だからこそ、多数派の大きな声だけではなく、一人の小さな声からヒントを得る必要があるのです。男女雇用機会均等法の施行から約40年、日本社会は少しずつ男女平等へと変化してきました。それはまさに小さな声を挙げ続け、拾い続けた歴史の成果であり、その変化は今後、多様性の尊重の元に、性別を超えたあらゆる個性の尊重へと広がっていくでしょう。

では、小さな声を挙げ続け、拾い続ける社会にはどのような教育が必要でしょうか？

それはきっと、示された課題を、自分なりの言葉で理解し、考え、迷わず尋ねたり、諦めずに挑戦したりできて、自然に目が輝くような教育、そうした学びの楽しさが子どもたち全員に保障されている教育のはずです。子どもたちはそうした態度を、教科学習だけでなく、友人や先生たちの何気ない会話、掲示物に書かれた言葉等、学校のあらゆる風景から学び取ります。先生がかける言葉が相手の性別によって違っていたり、立場によって言うべきことを言わずにいたりすると、そうした一瞬一瞬の姿が子どもたちの中に積み重なって“社会の価値観”になっていきます。

そのため、まずは先生方に男女平等教育の必要性や意義をご自身でじっくりと問い直してみたいと考えています。男女平等の実現とはどういうことか、どうすれば「多様な声に耳を傾け、自らも声を挙げられる人」を育てることができるのか。学校は未来社会を創る場です。現場の先生方全員がこの課題に向き合い、学校を最も男女平等な場にするのができれば、社会全体の男女平等が実現する未来はもう目の前です。